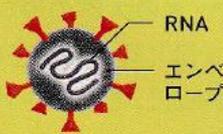
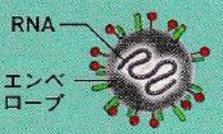
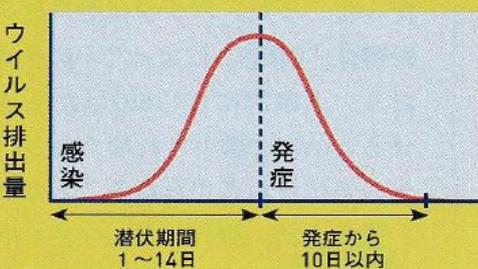
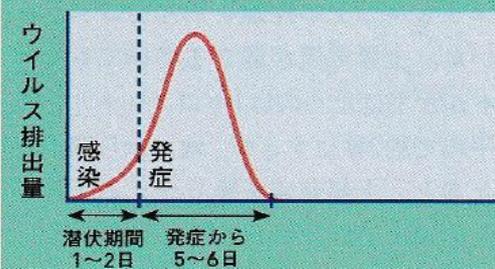


新型コロナウイルスとインフルエンザの同時感染

インフルエンザの流行期は冬である。新型コロナウイルス（新型コロナ）は暑さ寒さに無関係のようだ。今度の冬これらは同時に流行することが懸念される。これらのウイルスの構造や、感染の症状はよく似ている。両方とも RNA ウィルスであり、呼吸器感染症である。

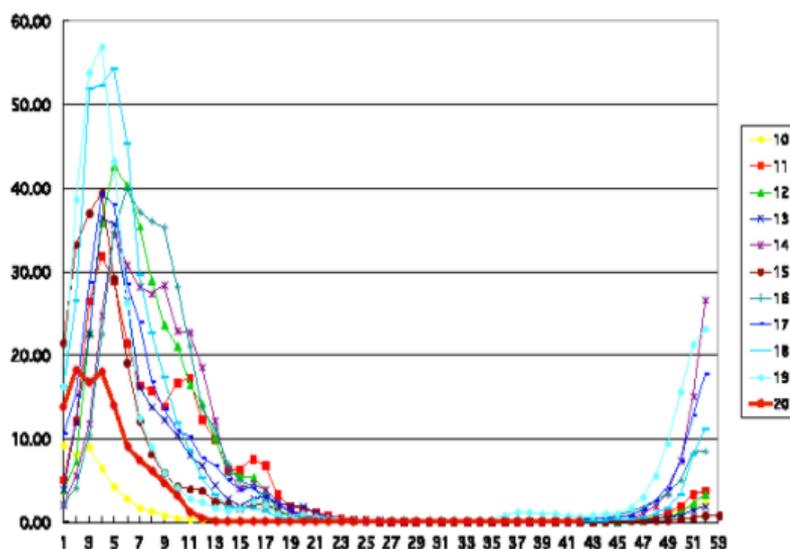
インフルエンザは感染すると2日ほどで症状が出る。飛沫などで排出されるウイルスの量は発症後増え始め、2～3日でピークとなり、5～6日でおさまる。無症状の人は10%しかおらず、ウイルスの排出量は少ない。

一方、新型コロナウイルスは感染後5～6日の潜伏期間があり、この間もウイルスを排出し続け、発症日ごろピークを迎え、10日以内におさまる。無症状の人は約80%いる。

	新型コロナ	共通点	インフルエンザ
構造	 <p>RNA エンベロープ</p>	<p>共通点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RNAウイルス ・エンベロープをもつ 	 <p>RNA エンベロープ</p>
症状	<ul style="list-style-type: none"> ・味覚の異常 ・嗅覚の異常など 	 <p>発熱 せき のどの痛み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・急な高熱 ・筋肉痛など
ウイルス排出期間	 <p>ウイルス排出量</p> <p>感染 発症</p> <p>潜伏期間 1～14日 発症から 10日以内</p>		 <p>ウイルス排出量</p> <p>感染 発症</p> <p>潜伏期間 1～2日 発症から 5～6日</p>
重症度	<ul style="list-style-type: none"> ・無症状～重症と幅広い ・80%が無症状 ・致死率は3～4% 		<ul style="list-style-type: none"> ・軽症～中等度の場合が多い ・10%が無症状 ・致死率は0.1%以下

日本で今度の冬これらが同時に流行したらどうなるだろうか心配である。

上図は過去10年間の日本のインフルエンザ患者数である。今年の患者数は前



年度に比べても約3分の1と激減している。今年の日本の夏は南半球では冬である。オーストラリアのインフルエンザ患者数も今年は激減していることが報告されている。この理由は不明であるが、二つの仮説が考えられる。

仮説1：新型コロナウイルスの感染対策がインフルエンザの感染対策にも有効であった。

仮説2：新型コロナウイルスがインフルエンザウイルスに干渉した。
干渉の詳細は不明であるが、これに関する研究報告はまだない。

参考文献

監修 石田 直 Newton 2020年11月号 p12

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-V813-idsc/nap/130-flu-10year.html>